

日本で一番大切にしたい会社（その3）

{ 親子二代の経営に共通する人を大切にする姿勢 }

岩手県二戸市 (株)小松製菓 S23年創業

夫婦で始めたせんべい屋は大繁盛したが奥さんのシキさんは過労がたたって病院に運び込まれた時は手術もできない程、悪化で死を待つだけの状態、夫のお母さんが付き添い24時間、ベッドの横で祈り続け医師に私の命と引き換えに嫁の命を助けてと訴え続けた、あまりの熱心さに看護婦さんが町内を駆け巡り同じ血液型の血液を無事に集め、手術が行われて九死に一生を得た。

{ 自分の命は沢山の人たちに支えられていることを悟り }

「人に感謝して生きる」

哲学が培われていった、そのことは息子の代になっても引き継がれ「受けた恩は順送り」小松製菓の哲学として生き続けている。シキさんが存命中の平成3年に「四季の里」レストランをオープン、定年になった従業員や障害のある方々の受け皿として作ったもの。

65歳以上でも意欲のある限り働き続けられ、障害者も6名働いている、年金と称してお小遣いを年2回支給、勤続20年以上・66～80歳まで勤続年数により1～4万円・本人が亡くなっても家族に・その人たちに四季の里で食事を提供してくつろいでいただく。

その店で働いている障害を持つ一人の若い男性はシキさんが生死を彷徨っていた時に町内から輸血用の血液を集めてくれた看護婦さんのお孫さん・心臓に障害があり26歳まで生きられないと云われたが健康を取り戻し新しい人生を歩んでいると、受けた御恩がこうした形で返されている。

{ 幸せ日本一を目指して4世代から愛されている }

笑顔いっぱいのレストラン }

(株)坂東太郎 茨城県古河市

毎朝・開店前に従業員が表に整列し外に向かってお辞儀するレストラン「親孝行」と感謝の気持ちを大切にするチェーン「坂東太郎」一人の従業員の交通事故をきっかけに・好調に売り上げを伸ばしてきた出前をやめ、店舗売りに徹した。

全ては従業員の命を守る為と、それまで日本一の規模でなく・日本一幸せな会社を目標としてきたが、全従業員と話し合い、

そこから会社は変わり2千名近い従業員が年初に店を休み一堂に会して「決起集会」を開き、全社員の夢を共有している。

1994年10億円だった売り上げは今では74億円で、しかもバブル崩壊後の20年で、その意味で坂東太郎の経営は本物であると

- *親孝行すること!
- *絶対幸せになるぞ!
- *働く仲間を大切にすぞ!
- *取引業者さんを大切にすぞ!
- *地域に絶対貢献すぞ!

毎年の入社式には新入社員の親も招待、新社員研修では

「お父さん・お母さん初めての給料を貰いました、これから親孝行します！」

そんな当たり前のことを3日間で徹底して教えている。

{ たった1個の注文にも応える町工場魂が物づくりを支える }

東海バネ工業(大阪市)

絶対に値引きせず言い値で販売、平均受注は1~5個・受注額は数万円、個人の家の壊れたドアのバネから精密極まる人工衛星部品に至るまで。

スカイツリー(634m)を支える巨大バネ、2012年2月竣工の風速110mにも耐えられる設計、放送アンテナのゲイン塔を支える制振装置に巨大且つ精密なバネが4個ずつ(1個は外径約60cm・長さ120cm・重さは800kg)このバネを製造したのが東海バネ工業。

世界で最も厳しい精度と信頼度の要求される明石海峡大橋の土台部分の支えで強い海風から世界最長の吊り橋を守ったり、日本全国の原子力・火力発電所で高温・高圧のタービンを安全に回転させたり大活躍。

71年間ただの一度も赤字を出したことがない、納期遵守率99,99%達成、顧客満足度を支えるのは高い社員満足度。

一人当たり人件費は年間同業他社比100万円高、有給消化率100%、子供手当や入学祝い金、第1子10万円・第2子20万円・第3子50万円・第4子100万円、自己啓発助成・20代年2万円・30代年3万円毎年

40年前にI・T化を推進、顧客のデータベースを作る、コンピューターシステムは進化して、電話があった瞬間に顧客データ呼び出して〇〇会社様ですね・どんなご用件でしょうか・・・一流ホテル並みのきめ細かい対応が可能、お客様は感動して必ずリピーターに・・・

{ 障害者つくし厚生会 }

福岡県大野城市

障害者雇用率 102,6%と奇跡の株式会社、この会社はほとんど障害者だけで運営し経営が成り立っている、3人を除いて全員が正社員。

59年に春日市と大野城市で不燃物処理工場の計画が持ち上がり障害者福祉協会の副会長であった小早川茂夫さんが立ち上がり、二人の市長の英断で奇跡の会社設立が実現、

1年間の訓練期間を経て60年3月操業、障害者7名・健常者4名計11名で、それからズ〜と続いている、現在は障害者31名(三分の一は重度のカウントで102,6%)・健常者7名、しかも31名中23名の障害者が公的資格を持つ廃棄物処理技術管理者・危険物取扱者・フォークリフト運転者・安全運転管理者防火管理者等。

「障害者だから人の嫌がるゴミの仕事？」58歳の障害者のお母さん(80歳代)は「私の息子にとってこの職場は天国でございます、毎日喜んで仕事に通っています、だから私も一生懸命弁当を作り持たせています」と